

第2章

【教育活動の定期的な振り返りと更なる充実】実践例

育成を目指す資質・能力を児童・保護者と共有する取組 ～大津町立室小学校～

重点的に育成を目指す資質・能力を児童、保護者、教師で共有し、ルーブリック表によって児童自身による自己評価の全体状況を可視化し、さらなる取組につなげている。



〔児童生徒が自己評価したルーブリック表〕

重点的に育成を目指す資質・能力を「受け容れる力」「参画する力」「問う力」「伝える力」「自己管理能力」「見通す力」の六つとし、「室っ子ぐんぐんルーブリック表」を作成しました。このルーブリック表は、カリキュラム・マネジメント・ディレクターを中心に作成し、県立教育センターの協力を得て内容を見直しています。

職員はルーブリック表を週計画簿にしおりとして挟んでおり、いつでも確認できるようにしています。

また、ルーブリック表は、教室や廊下に掲示し、児童がルーブリック表を基に自分自身を振り返ることができるようにしています。学校だより等でその状況を紹介し、保護者と共有も図っています。

後期スタート 未来を生きる子供たちへ...

[illegible]


駐在方法	・大抵の場合、自国と駐在国は異なる国である。自国語で、思っている以上の日本人の理解を得ることは困難である。駐在制度をうまく活用して、自国語を上手に活用する。
交通手段	・移った国へ、自国と駐在国の間に飛行機、道路がある。 ・駐在制度は、自国と駐在国にそれぞれある。それぞれに注意しなくてはならない。
お金のこと	・移った国で自国と駐在国の間に飛行機、道路がある。 ・駐在制度は、自国と駐在国にそれぞれある。それぞれに注意しなくてはならない。
国境	・移った国で自国と駐在国の間に飛行機、道路がある。 ・駐在制度は、自国と駐在国にそれぞれある。それぞれに注意しなくてはならない。
住居	・移った国で自国と駐在国の間に飛行機、道路がある。 ・駐在制度は、自国と駐在国にそれぞれある。それぞれに注意しなくてはならない。
食生活	・移った国で自国と駐在国の間に飛行機、道路がある。 ・駐在制度は、自国と駐在国にそれぞれある。それぞれに注意しなくてはならない。
文化・生活	・移った国で自国と駐在国の間に飛行機、道路がある。 ・駐在制度は、自国と駐在国にそれぞれある。それぞれに注意しなくてはならない。
政治・経済	・移った国で自国と駐在国の間に飛行機、道路がある。 ・駐在制度は、自国と駐在国にそれぞれある。それぞれに注意しなくてはならない。
教育・文化	・移った国で自国と駐在国の間に飛行機、道路がある。 ・駐在制度は、自国と駐在国にそれぞれある。それぞれに注意しなくてはならない。
医療・衛生	・移った国で自国と駐在国の間に飛行機、道路がある。 ・駐在制度は、自国と駐在国にそれぞれある。それぞれに注意しなくてはならない。
法律・行政	・移った国で自国と駐在国の間に飛行機、道路がある。 ・駐在制度は、自国と駐在国にそれぞれある。それぞれに注意しなくてはならない。
宗教・信仰	・移った国で自国と駐在国の間に飛行機、道路がある。 ・駐在制度は、自国と駐在国にそれぞれある。それぞれに注意しなくてはならない。
言語・文化	・移った国で自国と駐在国の間に飛行機、道路がある。 ・駐在制度は、自国と駐在国にそれぞれある。それぞれに注意しなくてはならない。
社会・生活	・移った国で自国と駐在国の間に飛行機、道路がある。 ・駐在制度は、自国と駐在国にそれぞれある。それぞれに注意しなくてはならない。
政治・経済	・移った国で自国と駐在国の間に飛行機、道路がある。 ・駐在制度は、自国と駐在国にそれぞれある。それぞれに注意しなくてはならない。
教育・文化	・移った国で自国と駐在国の間に飛行機、道路がある。 ・駐在制度は、自国と駐在国にそれぞれある。それぞれに注意しなくてはならない。
医療・衛生	・移った国で自国と駐在国の間に飛行機、道路がある。 ・駐在制度は、自国と駐在国にそれぞれある。それぞれに注意しなくてはならない。
法律・行政	・移った国で自国と駐在国の間に飛行機、道路がある。 ・駐在制度は、自国と駐在国にそれぞれある。それぞれに注意しなくてはならない。
宗教・信仰	・移った国で自国と駐在国の間に飛行機、道路がある。 ・駐在制度は、自国と駐在国にそれぞれある。それぞれに注意しなくてはならない。
言語・文化	・移った国で自国と駐在国の間に飛行機、道路がある。 ・駐在制度は、自国と駐在国にそれぞれある。それぞれに注意しなくてはならない。
社会・生活	・移った国で自国と駐在国の間に飛行機、道路がある。 ・駐在制度は、自国と駐在国にそれぞれある。それぞれに注意しなくてはならない。

この6つの力は、伊藤君の方から「こんな子になって欲しい」、子供たちの「こんな自分になりたい」、教師の「こんな力を身につけたい」という三つの思いと、誰一人として欠けぬ志と入れ、実を結ぶまで待つ必要があり、忍耐、また、

この評価によっても、教師が一方的に行うのではなく、子供たち自身が自分を振り返りながら、自らの力を主体的に育てていく、そこにこのゲームを生かすように、それは、ルーブリックと併せ、評価の指標として、高学年の児童は、このルーブリックで、6つの力を高める、自分の力を高める、と意識できるようにする。（自己評価）

以下、ルーブリックを抜粋したら年生の感想です。GメールやLINEが使えること、チャットがしやすいこと、次の日曜が軽微でわかりやすい、他県さん、チャットがしやすいと続きます。自分のことをしるが他の誰かを知るのにもいいです。自分の生活がわかる、友だちがわかる、友達とメール、LINEで

いいます。もともと「あいつ」を呼んで（いた）と「あいつ」のことを語り聞かれるのだから、思いはした「田舎さん」が自分がどのくらい面白かったのかを簡単につけられる。案外うすげ



学校の先生である子供たちの意見に、先生たちの経験や知識から、おぼろげに大切に受け止めていきます。今後は、児童会でもいろいろな方向で活動の場を、どんな活動をしていこうという観点から、委員会活動を通じていく予定です。子供たちが、自分の活動から、自分たちの豊かな文化を創りだすことができるようにしていきます。

「学校だよりで取組の共有」